

成長につなぐ — 事例17 ゴールズ&169ターゲット

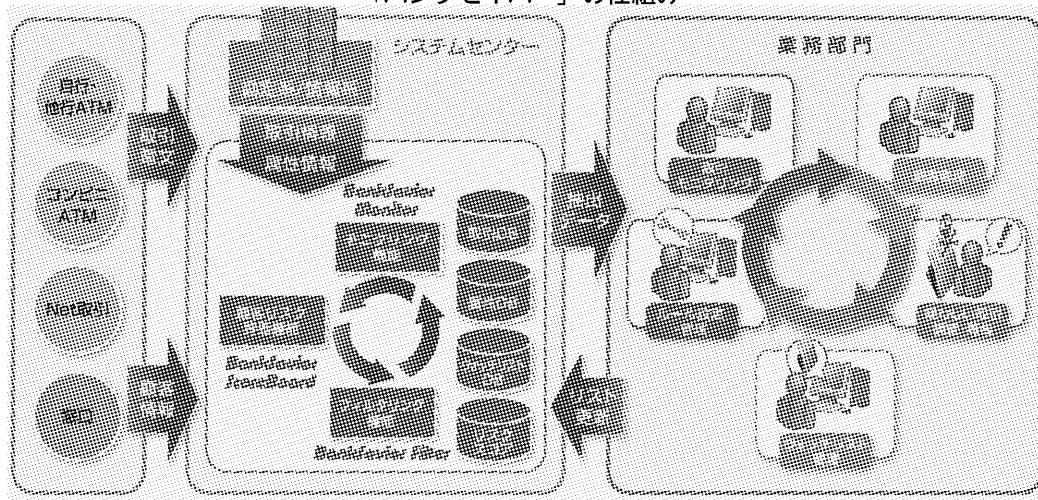
107

SCSK

マネーロンダリング(資金洗浄)やテロ資金供与の対策

も国連の持続可能な開発目標(SDGs)に含まれる。金融庁がSDGsの取り組みをまとめた資料では、16番の「平和と公正をすべての人に」に当たる。SCSKは金融機関にマネロン対策システム「バンクセイバー」を提供している。バージョンアップを重ねて検知精度を向上させている。

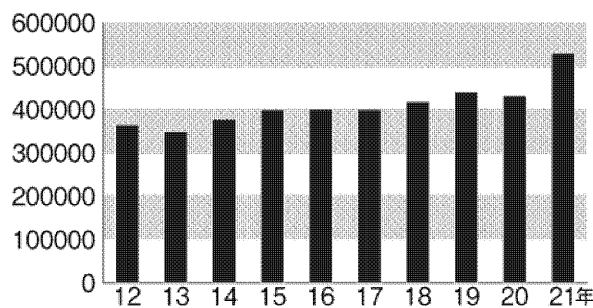
「バンクセイバー」の仕組み



警察庁によると2021年に金融機関などから届け出のあったマネロンが疑われる取引件数は前年比22.7%増の約53万件。過去最多で、初めて50万件を超えた。金

マネロン対策システム 検知精度向上

マネーロンダリングと疑われる取引の届け出件数(受理件数) 出典:警察庁



融機関の監視強化が背景とみられる。

次世代は「モニタリングとフィルタリングを統合的に管理できるようにした」と金融事業グループの寺尾誠金融営業・ソリューション本部長は話す。モニタリングとフィルタリングの両機能と、顧客リスク評価を統合して、金融機関のマネロン対策を包括的にサポートする。「フィルタリングの必要性は01年の米国同時多発テロのころから言われていた」という。

マネロン対策は国際的な課題で、金融庁は18年に「マネー・ロンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン」を公表した。金融機関に対して24年3月までに同ガイドラインの対応完了を求めるとに評価する。

SCSKが21年に提供を始めた「次世代バンクセイバー」は同ガイドラインに対応し、検知精度を高めた。同社は04年度からバンクセイバーを展開。全国の地方銀行99行のうち、約半数が利用する。だろ(同)。